



本委員会についてのご意見、ご要望は
jps-office@jps.or.jp

◆日本物理学会の男女共同参画推進委員会◆

日本物理学会（JPS）の女性研究者比率は、30年前の2%から、2017年3月15日現在 5.9%（女性学生(大学院生・学部生)比率は10.0%）に上昇した。しかし、理工系が目標とする2020年に30%にはほど遠い。女性・男性研究者が共に活躍し、多様な人材が物理学が発展に寄与するよう2002年に発足した男女共同参画推進委員会では、委員会構成は女性委員・男性委員を半数ずつで委員会活動が行っている。（女性会員に過度な負担をかけない、逆差別やバランスを欠いた議論しないため）

◆委員会の目標◆

1. 男女共同参画について意義の議論から活動へ

男女が共にお互いを尊重しあいながら、各人の能力を十分に生かすことのできる社会の実現を最終的に目指しているが、時代によって男女共同参画の取り組み方は変化しているように思う。委員会では、進化する男女共同参画を鑑みながら、物理学会として男女共同参画の意義を議論し、活動に繋げていくことを目指す。

2. 女性研究者を含めた次世代人材の育成

日本において理系の女性研究者、特に物理分野が世界的にみても少ないのは明らかな現実である。男女とも均等な機会の保障することは重要で、阻害する要因があればそれを除去し、著しい不均衡を是正するために積極的改善措置に取り組み、男女共同参画社会の形成を目指す。さらに、より豊かな物理学の発展のために、小中高生への理科教育、大学生、大学院生を対象とした専門教育、一般会員への啓発活動を行い、人権意識の高い、男女共同参画社会の形成に資する次世代の人材育成を行う。

3. 実態調査と環境整備

実態研究環境および生活の調査・分析を行い、研究者が抱える問題を明らかにし、21世紀の物理学のあり方をワークライフバランスの視点からも検討し、物理学会内での活動、政府への提言他、環境を整備する取り組みを行う。

◆活動報告◆

【1】次世代教育

「女子中高生夏の学校」（主催：（独）国立女性教育会館）を2005年の開始当初から企画運営に携わり、2016年は、

- ・ポスター・実験演示ブース「物理で遊ぼう」、
- ・実験「物理実験で深めるサイエンス（重力加速度を精度よく測る）、
- ・女子中高生と外国人TA（留学生や若手研究者）との英語での国際交流、
- ・保護者・教員向けプログラムへの話題提供を行った。

また、「女子中高生のための関西科学塾」も共催している。

（担当：鳥養映子, 中山敦子, 永廣秀子, 初田真知子, 本橋健次, 山本文子, 湯浅富久子, 岡村裕子）

【2】国際連携活動

「日物応物男女共同参画関連国際活動連絡会」この形で国際連携活動を行っている。

- ・2017年5月開催予定の Gender Summit 10（主催：JST他）には、「男女共同参画推進のための研究者情報の整備と活用(WG1)」を進めている。
- ・APPC13（2016年12月）@オーストラリア には、会長、委員会委員2名が参加し、口頭発表1件、ポスター発表1件など国際交流を行った。

ATHENAプログラム（Acceleration of Theoretical and Experimental Research Networking for Career Advancement of Women in Physics：アジア太平洋地区の女性院生・若手研究者を日本の研究施設に受け入れる事業）

- ・第68期会長（家泰弘）と男女共同参画推進委員長（嘉規香織）の呼びかけで2013年から始まり、今年KEKが受け入れた2名の大学院生と会長が、機関代表者および指導教員同席のもとに懇談を行った。

（日物応物連絡会での日物メンバー：森初果, 板倉明子, 小形正男, 倉本義夫, 笹尾真実子, 野尻美保子）



ATHENAプログラム
@KEKの様子 (写真提供：KEK)

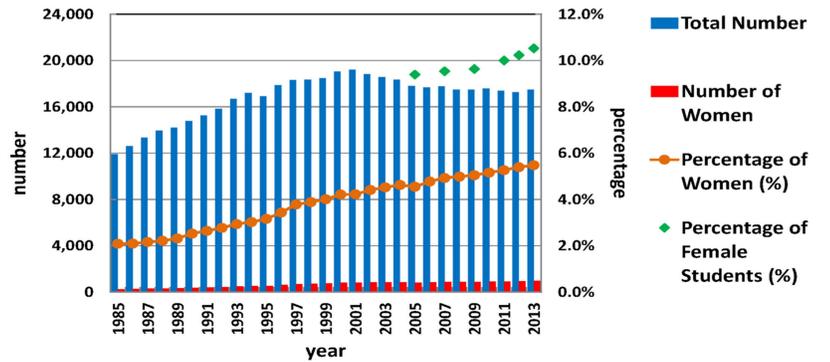


Gender Summit 6
@ソウル 参加の様子

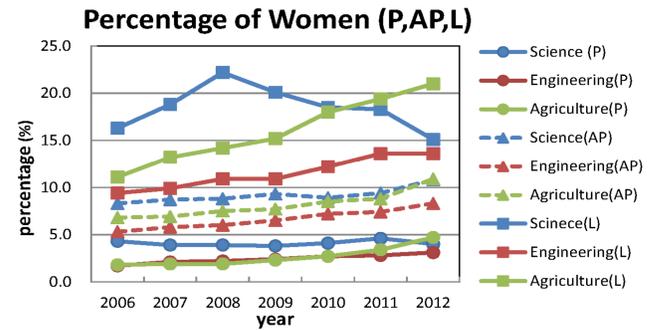
72期メンバー (2016.4.1 - 2017.3.31)



日本物理学会の女性研究者割合



物理学系の女性研究者の職位調査結果 (2012の大規模調査による)



P: professor AP: associate professor L: lecturer

【3】国内連携

53学協会が参画している男女共同参画学協会連絡会運営委員会およびシンポジウムに参加し、次期大規模アンケート準備委員会メンバーとしての活動を開始した。

（担当：遠山貴巳, 福島孝治, 野尻美保子, 伊藤公平）

【4】物理学会年会シンポジウム開催

2016年3月、【物理と社会】領域で男女共同参画推進委員会、物理教育委員会、Jr.セッション委員会の共同企画としてシンポジウム「ダイバーシティの中での物理教育」を開催。日本物理学会の現状報告、女子中高生夏の学校の活動紹介、物理オリンピックの紹介、高校大学の連携や、中等高等教育の現場での物理教育活動が紹介された。2017年3月、【物理と社会】領域で「ジェンダー平等・ダイバーシティの拡大 ～日本物理学会男女共同参画委員会の15年の活動を振り返って～」を開催する予定

（20aS11）である。（担当：鹿野豊, 野尻美保子, 高安美佐子）

【5】広報・その他

物理学会誌とHP (<http://danjo.jps.or.jp/>) に委員会報告や、イベントごとに活動報告を掲載している。また、日本物理学会事務局も男女共同参画推進活動に参画している。

（担当：間宮広明(HP) 岡村裕子, 宮野佳織, 白勢祐次郎(事務局)）



2015年、および2016年の、女子中高生夏の学校物理実験風景